

THE NIKKEI MAGAZINE

Education

日経マガジン 教育特集号
25 October 2019

中学受験と子育てを考える

「耕して、待とう」

解なき時代に「選択力」を育む
中高一貫校・有力塾の教育環境とは

巻頭インタビュー

自己肯定感や心のエネルギーが
次に進む原動力に

篠田 真貴子氏





自己肯定感や 心のエネルギーが 次に進む原動力に

篠田 真貴子氏

受験にとらわれない6年間
人と出会いで視野を広げ
学問の本質を楽しめた

—中高時代は、どんな活動に
力を入れていたのですか。

校友会（クラブ活動）のマンドリン
クラブの活動ですね。どのクラブ
も高校・大学とのつながりがあり、
マンドリンクラブにも、主に高等部
出身で大学のマンドリンクラブに在
籍している先輩方が日常的に指導
に来てくださいました。

仲間と一緒に音楽をつくる楽し
みも大きかったのですが、それ以上
に世代を超えた交流が印象に残っ
ています。大学生の普段の生活を
垣間見ることができたり、どの学部
ではどんな勉強をするのかを、中学
生なりに大まかに理解できたりと、

視野を広げるのに大いに役立ちま
した。

年に1度は、高等部から大学
生、OBまでが一堂に会してコン
サートを開催するなど、先輩・後輩
の強い結びつきはずっと続きます。
結局高校でもマンドリンクラブに
所属することになり、現在でも多
くの友人たちと交流が続いている
す。

—勉学の面で印象に残ってい
ることはありますか。

慶應義塾は一貫教育校であり、
受験勉強は必要ありません。です
から、中高時代は、ごく普通に学校
の授業を受け、定期試験に向けた
勉強をしていました。高校の高学年
になると、自分の進みたい学部系統
に合わせた勉強ができるよう、非
常に多くの選択科目が用意され

THE NIKKEI MAGAZINE
Education
中学受験と子育てを考える
—耕して、待とう—

CONTENTS

- 03 卷頭インタビュー
篠田 真貴子氏
 - 06 特別対談／次代のリーダーを目指して
中高時代いかに過ごすべきか
翻訳家・吉林大学外国語学部准教授 関美和氏
SAPIX YOZEMI GROUP 共同代表 高宮 敏郎氏
 - 08 英語人 Interview／平岡塾
西村あさひ法律事務所弁護士 細谷 夏生氏
 - 11 2020年度 中学入試を読む
森上教育研究所代表 森上 展安氏
- School Report
- 14 豊島岡女子学園中学校・高等学校
 - 16 広尾学園 インターナショナルコース
 - 18 国本女子中学校・高等学校
 - 21 八雲学園中学校高等学校
 - 22 品川翔英中学校・高等学校

日経マガジン エデュケーション 広告特集
企画・制作=日本経済新聞社

デザイン・構成／広真アド
取材・文／仲谷宏(拓文社)、cubix
撮影／近藤豊(帝国写真)、梅澤みゆき、知久聰史

■ 本特集に関するアンケートにお答えいた
だいた方の中から、抽選で図書カード
2,000円分を10名様にプレゼントします。

★詳しくは22ページへ

親子で「生き方」を考えるきっかけに 篠田さんおすすめの本



マイ・ストーリー
著: ミシェル・オバマ
翻訳: 長尾莉紗、柴田さとみ
株式会社 集英社



こころの対話
25のルール
著: 伊藤守
講談社+a文庫



[右]慶應義塾中等部の入学式の朝
[下]オレゴン留学中の頃の一コマ

親子で「生き方」を考えるきっかけに 篠田さんおすすめの本

マイ・ストーリー
著: ミシェル・オバマ
翻訳: 長尾莉紗、柴田さとみ
株式会社 集英社

こころの対話
25のルール
著: 伊藤守
講談社+a文庫

海外留学で受けた
異なる価値観への衝撃

——高校時代に、海外留学を経験されていますね。

高2の夏から1年間、オレゴン州の人口2500人くらいの小さな町の高校に、ホームステイで留学しました。帰国後は同じ学年に編入したため、卒業は1年遅れています。この留学で最も衝撃を受けたのは、現地の同級生との価値観の違いです。私たちの年代なら、上昇志向

いました。そうした選択授業では、大学の先生が教えに来てくださる場合があり、学問の本質に触れる経験ができました。

今でもよく覚えているのは、日本史の授業です。藤原道長の有名な一首「この世をばわが世とぞ思ふ望月の欠けたることもなしと思へば」は、教科書では、権力者の奢りを諷刺したものと解釈されています。

しかし、その先生は、様々な史料を提示して、当時の道長が重度の糖尿病だった可能性を指摘し、「思えば」は「だつたのに」とも解釈できるとおっしゃるのです。政治的には成功したのに、健康はままたない気持ちを諷刺した可能性もあるという気がします。

驚きの授業でした。既成概念も客観的な目で論理的に検証すれば、違った姿が見えてくるという、物の見方、考え方の基本を教わった

いました。そうした選択授業では、大学の先生が教えに来てくださる場合があり、学問の本質に触れる経験ができました。

今でもよく覚えているのは、日本史の授業です。藤原道長の有名な一首「この世をばわが世とぞ思ふ望月の欠けたることもなしと思へば」は、教科書では、権力者の奢りを諷刺したものと解釈されています。

しかし、その先生は、様々な史料を提示して、当時の道長が重度の糖尿病だった可能性を指摘し、「思えば」は「だつたのに」とも解釈できるとおっしゃるのです。政治的には成

功したのに、健康はままたない気持ちを諷刺した可能性もあるという気がします。

海外留学で受けた異なる価値観への衝撃

——高校時代に、海外留学を経験されていますね。

高2の夏から1年間、オレゴン州の人口2500人くらいの小さな町の高校に、ホームステイで留学しました。帰国後は同じ学年に編入したため、卒業は1年遅れています。この留学で最も衝撃を受けたのは、現地の同級生との価値観の違いです。私たちの年代なら、上昇志向

は、全く思っていません。慶應義塾中等部・女子高等学校では、自分の好奇心や心のエネルギーの源泉に経験することを教わり、まわりから強制されなくとも次の学びへと向かう力や、自己肯定感を育んでいただきたい。それがあるからこそ、人生のいろいろな局面で、次のテーマを見つけていくことができているのだ

全く異なる考え方で貢がれて人生を送る人が目の前にいる事実に、途方もない距離感を感じたことをよく覚えています。この経験も私の視野を広げてくれたと思っていま

す。

挫折から立ち直る力は「自分のエネルギーの源泉」を知っていること

——社会生活を送る上で、中高時代の経験が生きていると感じられます。ことがありますか。

大学は経済学部に進み、銀行に就職しましたが、社会人になつてから再び留学しMBAを取得マッキンゼーに就職することができました。ところが、数年で退職勧告を受けた。これが、中学受験以降は受験することに。中学受験以降は受験がなかったこともあり、それまでは必死に努力しなくても何とかできていたため、現実の厳しさにいきなり直面した瞬間でした。人生には、必死に努力しなければならない場面があると、気づいたことはよかつたのですが、立ち直るのに何年もかかりました。ただ、そのことがエスカレーター式の学校にいた弊害だと

は、全く思っていません。慶應義塾中等部・女子高等学校では、自分の好奇心や心のエネルギーの源泉に経験することを教わり、まわりから強制されなくとも次の学びへと向かう力や、自己肯定感を育んでいただきたい。それがあるからこそ、人生のいろいろな局面で、次のテーマを見つけていくことができているのだ

全く異なる考え方で貢がれて人生を送る人が目の前にいる事実に、途方もない距離感を感じたことをよく覚えています。この経験も私の視野を広げてくれたと思っていま

す。

子どもに責任感を持たせ自立を促すことも大切

——子育て世代の保護者に向かってアドバイスをお願いします。

予測不能な社会が到来すると喧伝されていますが、いつの時代も将来は予測できないものです。どのような変化が起きようとも、興味を持てて学ぶ姿勢さえ身につけていれば、乗り越えていけると信じています。そうしてた姿勢を支えてくれるのは、友人関係や趣味といった心のエネルギーです。

私は自身の中高時代の経験を振り返ると、中学受験に関しては、子どもと家庭の価値観と、学校の教育方針が合うような学校選びが最も大切だと思っています。子どもが感受性のする時期を過ごす場所だからこそ、家庭でしっかりと考えてあげられればと思っていま

す。

また、子ども成長に合わせて、自立を促すことも必要だと考

えています。私の両親は、子どもに對して「自分で判断できるだろうから、自分の責任でやりなさい」という方針でした。門限もありませんでした。高1のとき終電で帰宅した際にも、不機嫌な顔をするものの、小言は一切言われませんでした。だからこそ、逆に自分で自分を律することができるようになったのかもしれません。

私は自身の中高時代の経験を振り返ると、中学受験に関しては、子どもと家庭の価値観と、学校の教育方針が合うような学校選びが最も大切だと思っています。子どもが感受性のする時期を過ごす場所だからこそ、家庭でしっかりと見てあげられればと思っていま

す。

また、子ども成長に合わせて、自立を促すことも必要だと考

えています。私の両親は、子どもに對して「自分で

「自由」の中で自ら鍛える 自己実現のための英語力とは



「一生モノの英語力」を求めて首都圏から中高生が集う。教材にはラッセルやオーウェルの原書も。授業中でも飲食は自由だ。

「英語はツール」と言い切れる
伝える力を体得して初めて
在の仕事にどのように生きてい
ますか。

私にとって、法律と言語は似ていま
す。どちらも、あくまでツールであ
り、法律そのもの、言語そのものが重
要なのではありません。法律や言語を
使って、人にどのような思いや考えを
伝え、幸せな社会をどのように作つて
いくかが重要なのです。

弁護士になつてから、特に「言葉」に
神経を使うようになりました。どんな
に法律に詳しくても、法廷では顧客の
思いを代弁し、適切な場面で適切な
表現を使うことができなければ、相手

今でも覚えているのは、willが「遺言」の意味で使われていた文章です。そこから発展して、同じ未来形でも、willは意志を表すことを学びました。たとえば “I will host this conference tomorrow.” や “This conference is going to be held tomorrow.” や「日本語では同じ「明日」の会議がある」となります。しかし、前者は話し手の「会議を開きたい」意志を感じさせるのに対し、後者は単に予定を述べているだけ、という違いがあります。その違いをしつかり理解したうえで「明日この会議がある」と訳さなければ、英語を翻訳した」とにはなりませんし、「マニケーションに思わず離

書く生徒がいて、私は「絶対に負けるものか」と毎回モチベーションを上げて授業に臨んでいました。校生でもすごく練られた翻訳文を

人生は東大受験の日に終わらない 平岡塾は生涯学び続ける自分を 支えてくれる存在

——平岡塾で学んだ英語は、大學入試でも役に立ちましたか。

東大の過去問の英文より、平岡塾のテキストのほうが内容は数段難解でしたから、受験テクニックとして役に立った記憶はありません。むしろ大学でリベラルアーツを学ぶ際の基礎体力になつたと思います。人生は東大受験の日に終わるわけではなく、そこから始まるのです。

A portrait of Asahi Nishimura, a lawyer, standing outdoors. She is wearing a light-colored blazer over a black top. The background shows a scenic view of green trees and buildings. To the right, there is a red rectangular overlay containing text in Japanese.

10代にこそ「言葉」を突き詰め
自分の世界を広げてほしい



絶対的な法の番人ではなく
法で人間を包み込む
“正義の味方”でありたい

——現在、弁護士としてどうの
うな仕事をされていますか。

500人を超える弁護士が在籍

東京大学法学部在学中に飛び級で法科大学院に入学し、2014年10月、司法試験に合格（司法修習68期）。現在、日本屈指の弁護士事務所に勤務する細谷夏生氏は、企業法務で企業不祥事チームに所属する、若手危機管理ロイヤーだ。海外案件も数多く任される細谷氏に、高校時代の平岡塾での経験が現在にどう生きかされているかを伺った。

——しかし、結果として現在の法律事務所で働くことを選んだのですね。

ないものだとしたら、その法規制 자체を変えていくことも視野に入れた対応をとつたりすることができるような、前向きな解決策を出せるようになります。また、昨今多く報道されている企業不祥事についても、不祥

ほしがる多くの事務員たる者に、この
とじやないんだよね」と口を濁すなか、
現在の事務所だけは「なれるよ。俺た
ちも”正義の味方だから”と即答して
くれた。それが決め手になりました。

書く生徒がいて、私は「絶対に負けるものか」と毎回モチベーションを上げて授業に臨んでいました。校生でもすごく練られた翻訳文を

人生は東大受験の日に終わらない 平岡塾は生涯学び続ける自分を 支えてくれる存在

——平岡塾で学んだ英語は、大學入試でも役に立ちましたか。

東大の過去問の英文より、平岡塾のテキストのほうが内容は数段難解でしたから、受験テクニックとして役に立った記憶はありません。むしろ大学でリベラルアーツを学ぶ際の基礎体力になつたと思います。人生は東大受験の日に終わるわけではなく、そこから始まるのです。

A professional portrait of Asahi Nishimura, a lawyer, standing in front of a window with a view of a city skyline. She is wearing a light-colored blazer over a black top. To her right is a red rectangular graphic containing her name and contact information.

校生でもすごく練られた翻訳文を書く生徒がいて、私は「絶対に負けた」と毎回モチベーションを上げて授業に臨んでいました。

の「」ことに挑戦してください。

語(ご)をきたすことすらあります。仕事で英語ネイティブのリーガルエディターに、「あなたは英文の修正理由まで質問してくるから上達が早い」と言われました。修正された英文に対して、内容が腹落ちするまでの言葉に変換する習慣は、平岡塾で表現を徹底的に噛み砕き、「自分で叩き込まれたものです。

——平岡塾の授業はどんな様子で行われていたのですか。

先生たちは単なる英語教師というより、英語が堪能な専門分野の研究者という感じでした。たとえば、哲学などの専門書をテキストにした授業を聞いていても、背景となる知識量の多さがにじみ出ていました。また、課題の答えはクラス全

——平岡塾は細谷さんにとってどんな存在でしたか。

当時16歳だった私にとって「突き詰めて研究する場所」でした。こんなに難しい勉強をしたのは初めてで、勉強の仕方や大切さを学んだ場所でもあります。10色のペンで書きためたノートは、今でも「研究資料」として自宅に大切に保管し、英語で困ったときに見返しています。

——最後に、読者の皆さんへのメッセージをお願いします。

いま皆さんの頭にあるのは受験のことだと思います。でも、10代の貴重な6年間を、受験だけを目標に過ごすのはもったいない。この6年間は、自分が心血を注げるものを探す時間でもあります。将来の選択肢を

——しかし、結果として現在の法律事務所で働くことを選んだのですね。

司法試験合格後、弁護士事務所を30力所以上訪問し、「入所したら”正義の味方“になりますか」と聞いて回り

ないものだとしたら、その法規制 자체を変えていくことも視野に入れた対応をとつたりすることができるような、前向きな解決策を出せるようになります。また、昨今多く報道されている企業不祥事についても、不祥

——弁護士を目指したのはいつからですか。

大学3年のとき、流行に乗って司法試験の予備試験を受験しましたが、不合格でした。翌年、再受験して合格し、司法試験の受験資格は得ましたが、一年目に勉強したこと無駄にしたくなかったから受けたというのが、正直なところです。並行して就職活動もしていたので、予備試験に合格していなければ、一般企業に就職していたかもしれません。

ただ、「職業として弁護士になりたい」とは思いませんでしたが、「正義の味方」として生きたい」と

際には、人間が、より良い社会を目指して作り出したものに過ぎません。電力網や水道と同じです。もちろんルールを守ることは大切なのですが、「ルール違反だからダメ」「一回ルール違反をしたから、もう一度とチャンスはない」という考え方も違うなと感じます。

企業活動を例にとると、ある企業が何か新しい事業をしたいと考えて私のところに相談に来たとき、「たとえ現状の法規制の下ではその事業の内容が認められなかつたとしても「法律上無理です」と即答する弁護士に、私はなりたくないありません。「ここを」こうしたら、法律に違反せずにその事業の理念を実現できますね」と提案した

——大学時代は早くから法曹界を目指して勉強されていたのですか。

東京大学の文科I類に入学し、法学部に進学しましたが、法学以上にのめり込んだのは、教養課程と語学です。教養課程では、数学から精神分析学、「パスタでたどる中世史」まで、興味のあるものはジャンルを問わず受講しました。哲学や宗教学では、執筆者の思考に迫りたくて、ラテン語の原書にまで遡ることもありました。語学では英語に加え、

「どうした多くの事務所が『そんないこ
トぢやないんだよね』と『口を濁すなか、
現在の事務所だけは『なれるよ。俺た
ちも』正義の味方だから」と即答して
くれた。それが決め手になりました。

——細谷さんが目指す弁護士像
を教えてください。

法制度というルールに縛られる存
在ではなく、今ある法制度を前提とし
て、その中で生きる人や企業が幸せに
生きられる社会を作ることに貢献す
る存在でありたいと思っています。「法
律」と聞くと絶対的なものというイ
メージがあるけれど、細谷さんは「

西村あさひ法律事務所 弁護士
細谷 夏生 氏
(高1から高3まで平岡塾に在籍)





[写真上]御三家に匹敵するほど存在となった豊島岡女子学園も2022年度入試から高校募集を停止する
[右下]2018年に女子校から共学化された八雲学園
[左下]カナダと日本の高校卒業資格の両方が取得できる「ダブルディプロマ」プログラムを2020年度から導入する国本女子



ます。豊島岡女子学園も2022年度入試から高校募集を停止するなど、私立との併願者も増えている東京都立の公立中高貫校でも、併設型の高等学校・附属中学校として設置され、いたる校（武蔵、富士、両国、大泉、白鷗）が、22年までに高校募集を停止し、中学募集の規模を拡大することが公表されています。

大学入試改革に加えて、文部科学省が発表した、大学の「入学定員の厳格化」により、首都圏の私立大入試の厳しさに拍車がかかるなか、「内部進学」という保証は、確かに一つの魅力にはなるでしょう。とはいえ、それは因でしかなく、多くの保護者が選択する理由は教育の中身にあるようです。大學と隣接している学校ならば、充実した施設を中学の段階から利用できますし、大学生の講義を受講して、それが単位として認められるというように、早くから大学での学問に触れることが可能。将来的を考えるキャリア教育のほか、大学受験にかける時間と労力を、学問の探究や、卒業後の進路に生かすことができます。さらに近年は、系列大学への推薦入学の権利を保持したうえで、ほかの難関大



早稲田実業学校は100名以上増加しています。また九州にある早稲田佐賀も年々応募者を増やしています。さらにGMARCHクラスやそれに続く大学の付属系属校も軒並み応募者を増やしています。

大学入試改革に加えて、文部科学省が発表した、大学の「入学定員の厳格化」により、首都圏の私立大入試の厳しさに拍車がかかるなか、「内部進学」という保証は、確かに一つの魅力にはなるでしょう。とはいっても、それは因でしかなく、多くの保護者が選択する理由は教育の中身にあるようです。大學と隣接している学校ならば、充実した施設を中学の段階から利用できますし、大学生の講義を受講して、それが単位として認められるというように、早くから大学での学問に触れることが可能。将来的を考えるキャリア教育のほか、大学受験にかける時間と労力を、学問の探究や、卒業後の進路に生かすことができます。さらに近年は、系列大学への推薦入学の権利を保持したうえで、ほかの難関大

多様な進路選択も可能になり大学付属・系属校人気は持続

——大学付属校・系属校は今年も好調でしたが、応募者増は今後も続きそうですか。

そうですね。応募者増が続いている早稲田と早稲田大学高等学

院は減少しましたが、共学である

早稲田実業学校は100名以上

増加しています。また九州にある

早稲田佐賀も年々応募者を増や

しています。

大学入試改革に加えて、文部科学省が発表した、大学の「入学定員の厳格化」により、首都圏の私立大入試の厳しさに拍車がかかるなか、「内部進学」という保証は、確かに一つの魅力にはなるでしょう。とはいっても、それは因でしかなく、多くの保護者が選択する理由は教育の中身にあるようです。大學と隣接している学校ならば、充実した施設を中学の段階から利用できますし、大学生の講義を受講して、それが単位として認められるというように、早くから大学での学問に触れることが可能。将来的を考えるキャリア教育のほか、大学受験にかける時間と労力を、学問の探究や、卒業後の進路に生かすことができます。さらに近年は、系列大学への推薦入学の権利を保持したうえで、ほかの難関大

女子で高まる共学志向午後入試の定着で選択肢が多様化される学校はありますか。

——学校改革・入試改革で注目される学校はありますか。

近年、とりわけ女子は共学校志向が高くなっています。広尾学園、東京都市大学等々力、宝仙学園共学

部理数インター、かえつ有明、三

田国際学園など、女子校からの共

学化を機に、短期間で人気校とな

った学校が多くあります。18年には

青山学院横浜英和、文化学園大学

杉並・八雲学園が、19年には横浜

富士見丘学園、武藏野女子学院が

女子校から共学化されました。20

年度には、小野学園女子が、品川

翔英に校名を変更して共学化し

ます。

教育面では、『世界標準』の教育

プログラム導入で評価が高まる

学校もあります。カナダと日本の

高校卒業資格の両方が取得でき

る「ダブルディプロマ」プログラム。

首都圏で先陣を切った文化学園

杉並に続き、国本女子も20

年度からこれを導入することを発

表しています。

一方、午後入試の需要に伴い、

入試改革をする学校にも注目が

集まっています。今年は、巢鴨、

世田谷学園といった男子難関校が2月1日午後に算数1科入試を導入したことが話題となりました。午前入試からの移動時間を考慮すると、開始時間は15時以降となることが多い午後入試。そのため、受験生の負担を考慮して午後に限っては2科にする学校も多かつたなか、それをさらに絞つて算数1科にしたのです。「算数に特化」となると男子学生院、大妻中野といった女子学院、大妻中野といった女子学校も多かつたなか、それをさらいに絞つて算数1科にしたのです。これからの時代は、文系・理系にかかるわざずデータ分析など数学的な思考力は不可欠といわれています。数学に強く、論理的思考力に優れた生徒を集めたいと考える学校にとっては、算数1科入試は合理的な選抜方法なのかも知れません。

教育改革への対応策を打ち出した私立の中高一貫校。各校してきた私立の中高一貫校。各校の入試は「どのような生徒を獲得し、どのような能力を伸ばすか」というメッセージの現れでもあります。基礎学力の定着を図るのはもちろん、社会で起きている出来事に关心を向けて、幅広い知識を身につける必要がありそうです。